

福島敏夫随筆集

「乙戸南雑話「花鳥風月及び星・虹を愛でながら」から

主宰論説51

2025年を振り返って(その1)

今年も、喜怒哀楽いろいろなことがありましたが、やはり、怒哀の方が、喜楽より多かったのかもしれない。また、恐れや不安などによる気持ちが萎える話も、結構多かったようです。

まず、悲しみと怒りおよび恐れと不安す。

不安と恐れです

今年も、世界各地で、地震、火山の噴火、火事、洪水等の自然災害が続出し、大きな被害に見舞われました。北米、欧州、アジアなどで、熱波や豪雨の猛威にさらされました。命に危険が及ぶ高温が続き、山火事や記録的な水害も発生しました。世界気象機関（WMO）のターラス事務局長は、一昨年、「地球温暖化の影響で異常気象の頻度は増しており、残念ながら『新たな日常』になりつつある」と警鐘を鳴らしましたが、昨年に続き、今年も、続いているようです。日本でも、風・水害、土砂災害、豪雨と土石流、雪害と凍結と停電など、想定外の天変地異の自然災害、人災および複合災害が、多発しました。自然の猛威を知らしめるには、十分でした。今年も続いた長い日本の全国的な酷暑は、秋の十分な訪れなく冬に向かい、四季を喪失させた感じがありました。12月初頭まで、暑い日が続きました。小規模の失火や放火によると思われる胸の痛くなる悲惨な火災も、続出しました。

地震、雷、火事、竜巻、台風、水害、津波などの天変地異も、従来と比べて、頻発化し、激甚化の傾向が目立つのは、様々な地球のきしみが影響しているのかと、気になるところです。また、今年は、新たに、熊害（ゆうがい）が、続出し、野生動物との共生の見直しも、迫られました。

次に、今年起こった天変地異の災害を列挙します。

◎ロシアのカムチャツカ半島沖の大地震・津波、青森沖大地震・津波

◎インドネシアのレウオトビ火山の大噴火、ハワイのキラウエア火山の大噴火、鹿児島県桜島の噴煙活動の活発化（富士山の大噴火の恐れ？）

◎能登半島地震、豪雨、大雪の複合災害の爪痕の長期化

◎アマゾン川および揚子江での早魃の激甚化

◎ロスアンゼルス山火事、スペインおよびギリシアの地中海沿岸都市の山火事、

◎岩手県大船渡市の山火事、群馬県妙義山の山火事、神奈川県日向山の山火事、岡山県の広域山火事、愛媛県の広域山火事

◎インドネシアの豪雨と大洪水

◎年末の日本各地の住宅・建築における火災の続出、大分市佐賀関地区の広域火災、香港の高層マンションにおける火災

改めて、東日本大震災および熊本・大分大地震、能登半島の複合災害、および各地で頻発し、激甚化する自然災害で亡くなられた方々の心からの御冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様のお見舞いと、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。また、長引いている原発事故の対応が迅速に進むことを願いたいと思います。また、地震、雷、火事、竜巻、暴風雨・水害、大寒波と雪害、早魃、熱波等の最近の想定外の天変地異で亡くなられた方々、被害を受けられた方々のお見舞いを申し上げたいと思います。また、ぶり返す新型コロナ・ウイルス禍や新たな感染症が、速やかに沈静化することを願いたいと思います。また、今年頻発した熊害に見舞われた方々にお見舞いを申し上げます。亡くなられた方々に心からの御冥福をお祈り申し上げます。

期待と不安です

インターネット社会の進展とともに、いろいろな利用の利点と問題点、社会生活等に及ぼす深刻な影響について、今年も、考えさせられることが多かったようです。インターネット技術（ITX）や人工知能（AI）やデジタル化（DX）などの普及に伴い、いろいろな有用な情報は、早く得られ、インフラなどの総合的管理などがし易くなった反面、偽情報やフェイクニュースで惑わされ、サイバー攻撃、偽サイトへの不正誘導や詐欺などが、横行しました。スマートフォン、携帯電話、場合によっては、パソコンでも、通信妨害・障害が、多発するようになりました。

私自身も、パソコンの起動の不具合、クレジットカードによる決済の不良、ホームページの公開遮断などの被害を経験しました。

金銭詐欺に代表されるいろいろな金銭トラブル、傷害・殺戮事件が、続出しました。海外からのインターネット経由と誘導による、若者の闇バイトへの関与と広域の強盗および傷害・殺人事件への参画の悲しい事件も、多発しました。

人工知能（AI）に関連した話題が、多くなり、社会的な大変革の時代を思わせました。特に、生成AI、チャットAIなど、人工知能の長足の進歩とともに、機械学習等による、実験的に得られ難い物性データや、微視的内部構造の推定等の有用性の反面、著作権・知的財産権の侵害、偽情報の拡散、創造性への悪影響等のマイナス面、データセンターのフル稼働に伴う電力消費量の世界的な際限ない拡大の懸念が、指摘され、改めて、人工知能（AI）のありかた、対応の仕方が、問われるようになりました。人工知能（AI）の“光と影”への的確な対策を考えるべきと考えられます。国内および異国からの一見目に見えない形での著作権・知的財産権の侵害も、結構多くなりました。創造性とオリジナリティーの問題を、改めて、考えさせられました。

悲しみと怒りで

昨年に続き、外では、相変わらず、民族的紛争、宗教的争い、内戦・テロ、強引な対外威圧と世界の覇権をめぐる争い等は、絶えることがなかったように思われます。シリア内戦の方は、収束し、新たな再建・復興を目指して動き出したという朗報もありますが、アフガニスタン、ミャンマー内戦等は、まだまだ続き、収束の兆しが、見えません。タイとカンボジア間の新たな戦争が勃発したのも、気になることです。ウクライナ国民に大惨禍をもたらすと同時に、地球的な規模での資源・エネルギー問題を悪化させ、原子力施設、世界遺産の壊滅的崩壊の恐れを招き、開発途上国における貧困・飢餓、伝染病の蔓延・拡大などの誘因になるなど、いろいろな意味で、世界各国に、夢と希望を失わせかねない大きな災禍の源となったロシアのウクライナ侵攻と戦争が、未だ収束の兆しが見えません。持続可能な開発目標（SDGs）の未来展望に、著しい悪影響をもたらしています。また、昨年以來、イスラエルとパレスチナの武闘集団ハマスおよびレバノンの武闘集団ビストラとの戦争が、続いており、解決には、まだまだ大変ですが、時間がかかると予想されます。相変わらずの北朝鮮、中国、ロシアの近隣専制国家による軍事的・経済的・人口的威圧と脅威が増大し、いまだに収まるところがありません。国家間や国際的緊張の解決に向けて動くはずの国連（UN）は、機能不全に陥って、なかなか争いの解決に向かえないという不安と危惧もあります。戦乱・内乱は、自由な旅行・渡航・航行を阻害し、物資運送不全や人的・文化的交流を、著しく阻害する原因だと思われまふ。世界各国の民主主義国家で、与党の少数派転落や、政権交代の動きは、どのように影響するのか、気になることです。また、内では、相変わらず、胸の痛むいろいろな傷害、刺殺、殺戮事件が多発しました。心ならずも事件に巻き込まれた方々への御見舞を申し上げますとともに、亡くなられた方々への御冥福をお祈りしたいと思います。また、“政治と金”と言われる、相変わらずの政治的な灰色の霧および不透明問題、人を救うはずの宗教法人のとんでもない裏の顔の露呈問題、インターネット空間での通信妨害・障害、偽メールによる不正サイト誘導、サイバー攻撃による情報漏洩および制御機能停止問題、蔓延する振り込め詐欺問題など、悲しく、暗い話も、続出しました。全国各地で相次いだ広域闇バイトを巡る指示役と実行役、中継ぎ役の関係が明らかとなりましたが、実行役による強盗、殺人事件が、関東を中心として、広範囲で続出しました。くれぐれも、若者の人生そのものを奪いかねない闇バイト問題の解決に向かう措置がおこなわれることを願いたいと思います。

また、今年も、昭和・平成・令和時代を支えた名人・偉人・面白人たち、これまで親しく付き合ってもらった恩師、昔の上司、同僚、後輩、同級生や、先人の多くが、長い二度と帰らぬ永遠の旅路に赴きました。世界的にも有名な偉人に近い人等の訃報も続出し、悲しみに、襲われることもありました。

気候変動などの自然災害に対する有効な対策が、カーボン・ニュートラル、カーボン・リサイクルなど、ようやく出そろいましたが、目安としていた数値目標は、既に超えていて、既に手遅れと考える人も少なくないようです。筋書き通りに実効性があるのか、いまだ見通しが不透明な問題もあります。生態系への深刻な影響をもたらすとされるマイクロプラスチックが、海洋・陸地・大気中いずれでも検知されるようになったという報告もあり、懸念されます。固体・液体・気体の廃棄物問題、生物多様性の激減、開発途上国での貧困・飢餓、伝染病の蔓延など、地球環境問題が、地球における生物全体の存続をも危うくする危険性も指摘されるようになり、改めて、持続可能な開発目標（SDGs）の重要性が認識されました。可能な限り、的確な防災・減災対策とともに、実

効性のある対応策を考える英知が必要であると思われました。また、改めて、頂いた命を大切に、天命を全うすることの重要性も、考えさせられました。

また、世界における物資交換・交易に多大な悪影響を与える関税合戦が、未だに続いていて、治まるところがありません。

ついで、喜びです。

『輝く未来』をテーマにした、大阪万博は、最初の開催時の不安を吹き飛ばし、世界各国のパビリオンのイベントばかりでなく、各国の文化・特産物の共同紹介館の人気等に支えられて、入場者もうなぎ登りに増え、予想以上に大幅な黒字を達成し、成功裡に終わったのは、大変喜ばしく思われました。

日本では、阪神が、ぶっちぎりのように、セントラル・リーグの優勝を飾りました。また、ソフトバンクが、パシフィックリーグのクライマックス・シリーズを制するとともに、日本シリーズを制し、9年ぶりに日本一に輝きました。

また、アメリカのプロ野球で、日本出身の若手の大谷翔平選手が、投手と野手の2刀流を復活させ、今年も大活躍をし、ドジャースのワールド優勝の連覇に大きく貢献するとともに、4度目の最高殊勲選手にも輝きました。また、同僚の山本由伸投手、佐々木朗希投手も、輝かしい活躍を見せました。若者の新しい挑戦と夢と希望の源になったことも、記憶に新しいところです。野球界は、いろいろな快挙も多く、華々しい年でした。スポーツも、いろいろな意味で、人々に感動をもたらし、夢と希望につながる力もたいしたものだと、感心させられることも多かったようです。

また、囲碁界、将棋界での新鋭たちの最年少記録や多冠の大活躍や、音楽界や芸術界や学界などでの、ベテランの、情熱と技能の衰えないしぶとい活躍とともに、若い人たちの新しい息吹と胎動と創造の動きも、頼もしく感じられました。いろいろな音楽、絵画、陶芸、建築・建造物など、国境、宗教、時代を超えて、人の心の琴線に響く文化的な力も、たいしたもので、改めて、感動の源になったようです。

囲碁の世界では、一力遼、上野愛咲美さんをはじめ、芝野虎丸、井山裕太さんが、今年も、世界戦で、大活躍しました。将棋界では、藤井聡太さんが、今年も大活躍し、6冠維持に近い状態が続いています。特殊才能の達人に当たるのかもしれないが、たいしたものです。

楽しみと喜びです

喜びです

新型コロナウイルス禍で、開催を控えていた、地方の郷土芸能、祭り、花火大会、ライブが復活し、生命讃歌を奏でている姿は、ともすれば沈みがちになる気持ちを豊かにさせ、夢と希望の源にもなったようです。美術館、博物館、庭園散策なども、人の心の癒しと安らぎを与えるのに役だったように思われます。後継者難や資金面の面から、いろいろな催しが、難しくなっていると言う状況もあるようですが、日本の文化の継承と意味で、継続されることを、願いたいものです。

嬉しさです

夢と希望をもたらす話もかなり多かったようです。

先ずは、坂口志文、北川 進の2人の日本人の先生のノーベル生理学・医学賞とノーベル化学賞のダブル受賞が上げられます。分野が限定されていて、すべての金字塔を表すものではないという異論もありますが、人類への多大な貢献という意味で、大変うれしく、誇らしい話だと思います。ともすれば、直ぐに成果が期待でき、華々しい栄光を求めようとする傾向もある中で、運・鈍・根ということ、または、知的好奇心に基づく、継続的で、懲りずあきらめずにやることの重要さを、教えて頂いたように思われます。

文化界、スポーツ界でのいろいろな快挙、科学界でのすばらしい発見や創造、工学および実業界での新しいイノベーション（DX、IoT、人工知能、ビッグデータ、ロボット、スーパーコンピュータの新型コロナウイルス感染対策等の社会貢献での活用、量子コンピュータの実用化の動き、民間による宇宙技術の開発の進展、科学技術と芸術の融合、無人飛行機ドローンの平和目的の利用の進展、可視化の高度化など）、皇室・皇族のほのぼのした話題など、今年も、今後に向けての明るい話題もありました。人と生物と自然との

共存・共栄と宇宙船地球号の切さ、世界遺産の保存と存続と世代的継承、地域・地方社会の再生と活性化に向けての着実な動きなど、情熱と努力と継続を感じさせる話も結構多かったと思います。

少数与党ながらも、日本の憲政史上はじめての女性を首班とする高市早苗内閣が成立し、積極財政による日本の活性化、平和・国防の積極的推進、世界の真ん中で輝く外交路線の発進など、若者にも希望を与える方向が、かすかに見えてきているようです。

年の瀬が迫ってから、打って変わって、大寒波と雪害に見舞われました。北海道、東北、北陸、山陰地方の日本海側だけでなく、全国的に、大寒波と大雪の雪害に見舞われました。アメリカ、カナダの北米、イギリス等での大寒波と雪害も、厳しいものがありました。雪は、スキー場にとっては、営業上不可欠ですし、貴重な水資源にもなりますが、生活の支障とインフラ破壊も連なります。尊い命を守るために、防寒対策とともに、防災・減災対策は、忘れないようにしてもらいたいものです。被災された皆様のお見舞いと、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

いましめと記憶の継続の大切さです

忘れていたかも知れませんが、いろいろな建造物や文化遺産の老朽化とその対策について、考えさせられることも、多かったようです。また、最近とみに、いろいろな建造物、インフラ等の、老朽化・劣化による事故や不慮の災害も増えているようです。的確な維持・保全・修復・新生への配慮を願いたいと思います。また、伊豆熱海における豪雨と土石流災害やメガソーラーにからむ土砂崩れなど、最近人災と連動する想定外の複合災害、あるいは、地震、豪雨、雪害などの天変地異が重なって起きる別の形の複合災害への対応が緊急性を増しています。的確な防災・減災対策が、望まれます。

材料・部材等の劣化は、必要な性能・機能の経時変化として、社会的インフラや建造物の損傷やその資産価値の低下や不測の事故とともに、世界遺産の存続にも影響を与え、寿命を早めることも わかってきました。また、自然災害や人災および複合災害の際の危険度を高めることにもなります。気候・風土の影響もありますが、地球環境の変化も、複合災害の増大にも連なることもあるようです。長期的な実効的な対応策とともに、短期的・中期的には、的確な防災・減災対策を考えることが重要だと考えられました。軍艦島その他の世界遺産となっているいろいろな建造物も、正しい劣化と寿命の知識に基づいて、維持・保全、修復、再生を行い、必要あれば、解体・廃棄をするという判断が必要になることも あるようです。前進だけでなく、時には、涙をのんで撤収を図るという判断をすることも、重要になるかと思います。

令和7年12月22日 初稿

令和7年12月23日再校

令和7年12月25日夕方進行版

令和7年12月25日夜継続版

令和7年12月27日見直しと精緻化

令和7年12月28日再構築

令和7年12月30日最終版

